

一年を振り返って 「出会いの再発見」



国際ロータリー 第2660地区 ガバナー **片山 勉**
(大阪東RC)

2017-18年度の終わりを迎えるにあたりまして、先ずは多くの方々に心から感謝申し上げます。パストガバナーの皆様方、直前ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニ、ガバナーノミニ・デジグネート、ガバナー補佐の皆様、代表幹事を始め地区幹事の皆様、地区委員会の皆様、ご指導ご鞭撻とご支援、本当に有難うございました。

また、P E T S、地区研修・協議会、地区大会に対して絶大なるご支援、ご協力をいただきましたガバナー事務所とホストクラブ大阪東RCの皆様、有難うございました。

まさに、第2660地区の皆様方の素晴らしさに誇りを感じ、感動した1年となりました。

この1年間を、エレクト期を含めて振り返りたいと思います。

昨年1月にサンディエゴで開催された「国際協議会(ガバナーエレクト研修会)」で、イアン・ライズリーRI会長が掲げられた今年度のテーマ「Rotary: Making A Difference」をたずさえて帰国した時から、今年度の準備が本格的にスタートしました。

まず、最初に悩んだのはRI会長テーマの日本語訳「ロータリー：変化をもたらす」の解釈でした。RI会長テーマを具現化するものとして、地区スローガン「個性を活かし、参加しよう」と決定し、2月の地区チーム研修セミナー、3月のP E T Sを迎えました。

そして4月の地区研修・協議会では、より詳しくRI会長テーマを理解・尊重したうえで、地区スローガン・地区方針について私の想いを語り続けてきました。

今年度が始まる前の半年間、そして今年度の1年間は、毎月開催されるガバナー補佐エレクト会議・ガバナー補佐会議で、ガバナー補佐の皆様と一緒に、ロータリーについて議論し、貴重な意見と熱意をいただきました。

いよいよ7月に入り、大阪RCから始まった公式訪問は12月の大阪東RCで終了しました。公式訪問にあたり、各クラブの活動計画書を読み込み、ガバナー補佐の報告を受け、各クラブの個性・奉仕活動・課題を中心に会長・幹事・理事役員の方々との懇談会そして例会にのぞみました。

公式訪問でのガバナーの責務であるRI会長テーマとガバナー方針を、各クラブの現状と将来構想の必要性の中でお話しし、理解を深めていただけるようにして参りました。私が強調したことは、各クラブが「魅力のある・元気のある・個性のある」クラブを目指し、「役に立つ、楽しいクラブ運営を工夫しましょう」です。公式訪問を通じ、ほとんどのクラブがロータリーについて真剣に考え、立派な奉仕活動を実行されていることに頭が下がりました。そして総体的に会員数の維持にご苦労されているなかで、奉仕活動の検証の必要性についてもお話しさせていただきました。また、ロータリー財団・ポリオ・米山記念奨学会への寄付・My Rotaryへの登録についても、ロータリアンの皆様にご理解と温かいご支援を賜りました。

各クラブ・ロータリアンの皆様にご心からの敬意と感謝を申し上げます。

公式訪問を始めてすぐに気付いたことは、ガバナーは特別な存在と思われていることでした(確かにガバナーは地区唯一のRI役員ではありますが)。もし、そうであれば、クラブと地区との関係にも長い距離感が存在し、相互理解の妨げになると危惧しました。ガバナーも地区に派遣されている委員の方々もロータリアンであり、私を含めた地区は『クラブの支援』が最も重要な役割であります。私の感じた距離感を縮め、ガバナーがクラブにもっと近い存在であることを公式訪問の中で感じてもらえるように努めてきました。

議論ができ、相談できる仲間として、公式訪問中に質疑も取り入れ、公式訪問後はクラブの卓話に積極的に出かけることにしました。地区委員会の方々にも「誰の為に、何の為に」の軸がぶれないようにしようと、運営をしていただきました。

地区大会はRI会長代理に加藤玄静様が決まり、同期の大谷パストガバナーご夫妻にエイドをお願いし、11月10日～11日に開催しました。地区大会は地区内クラブとロータリアンが一同に会する唯一の機会であり、地区内の友好と親睦を深めることを目的とし、その運営については、分科会・RI会長代理歓迎晩餐会・顕彰者昼食会・本会議の全ての行事が、地区内ロータリアンにとって有意義であり、変化を感じてもらえることを基本として企画していただきました。

大会期間中は終了するまで不安と緊張の連続でしたが、多数のロータリアンのご参加をいただき、順調に進みました。閉会の点鐘を打ったときは、無事に終了した安堵感に包まれました。そして企画・運営を担っていただきました皆様に感謝の気持ちを込めて握手してまわりました。

ガバナー年度が後期に入り、IMロータリーデー、IMごとのフレッシュロータリアン研修・交流会、クラブ周年行事が中心となりました。いずれも素晴らしい企画の中で、それぞれに個性があり感動を与える集まりとなっていました。

私の年度(2017-18年度)は、立野ガバナー年度から始まった戦略計画委員会の推進、IM再編成、IT化への対応と、松本ガバナー年度に決議・導入されたRIによる「クラブ運営の柔軟性・自主性」と新たに成立されたロータリー学友会など、2015-16年度～2016-17年度にできた新しい制度や取り組みを整え、4月の地区研修・協議会にて、当地区で初めて「地区ビジョン-中期5ヶ年目標-」を発表し、山本ガバナー年度(2018-19年度)に円滑に引き継ぐ、体制づくりの期間になりました。新しいことはほとんど実行できなかった年度でしたが、「1年間を振り返って」私にとってはロータリーモメントとして心に残る最も充実した1年間となりました。

この1年間で多くのロータリアン・ロータリーファミリーと出会い、身にあまるご厚情とご支援をいただき、何よりも知識・人生観を感じ、学ぶ機会となりました。

出会いの大切さを再発見する1年となりましたことに、皆様へ重ねて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

最後になりましたが、ガバナー事務所の皆様にも御礼申し上げます。